



Hope for Tomorrow は 4 年目を迎えました。皆様の温かいご支援のお蔭で今年度のご報告ができますことに、心よりの感謝と共に御礼を申し上げます。

まず「進学支援」については、例年通り、被災地の福島県、宮城県、岩手県の計 5 高等学校の先生方のご協力を得て、支援を必要とする 127 名の生徒を選定し、計 500 万円の資金援助を行いました。

また「国際交流支援」として、国際交流基金のプログラムで日本を訪問した米国の高校生と被災地の高校生が交流する‘日米高校生サミット’に協力するようになっていましたが、大型台風の影響で米国高校生が被災地を訪れることができなくなり、サミットは中止となりました。楽しみにしていた高校生にとってはとても残念なことでした。

なお、岩手県立高田高校は津波で全壊したため、隣町の大船渡市の仮校舎に移転していましたが、新年度からは陸前高田市に完成した新しい校舎で授業が受けられるようになりました。

震災から 4 年が過ぎ、少しずつではありますが希望の見える状況もある反面、震災前の生活に戻れず、大変な思いをしている家庭もまだ多数あるようです。子どもたちが明るい明日を見ることが出来るような支援を続け、明年ご報告をできることを楽しみにしています。

2015 年 5 月 吉日
代表理事 田中 均

【 2014 年度（2014 年 4 月～2015 年 3 月）活動報告】

I. 進学支援

2014 年度 進学支援	福島県		宮城県		岩手県	
	合計	原町高校	石巻高校	気仙沼高校	高田高校	大船渡高校
生徒数	127	33	23	27	24	20
支援額	¥5,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000

受験費用を援助する進学支援は、テイラー・アンダーソン記念基金*からの助成金 100 万円を石巻高校への支援に充当し、これを含め過去 3 年度と同様の上記 5 校に対して実施しました。各校とも日常の学校生活は随分と改善されました。しかし未だ仮設住宅など自宅以外から通学する生徒が一定数いるうえ、保護者の収入減や自宅再建・転居などの支出増で経済的に不安を抱える家庭が相当数います。模擬試験の受験料や一部の大学の受験料の減免制度が終了するなど受験生をもつ家庭はさらに負担増となっています。私達が行う進学支援は家計への負担を意識して進路を考える生徒や保護者にとって大変貴重なものとなっていると、各学校関係者は進学支援の継続を切望されています。※テイラー・アンダーソン記念基金は、東日本大震災の津波で亡くなったテイラー・アンダーソンさんの夢であったアメリカと日本の架け橋になるという遺志を引き継ぎ、石巻や東北地方の子どもたち、家族、学校への復興援助・支援することを目的として設立されました。

進学支援を受けた生徒・先生からのメッセージ

生徒が書いた受験の感想や今後の抱負と各高校の先生方からの現状報告等の一部を紹介します。

<http://hope-tomorrow.jp/report/>に生徒達からのメッセージを掲載しますのでご覧ください。

福島県立原町高等学校

- ◇ これから大学で勉強し将来教師になって地元のために尽力したいと思います。この支援のおかげでお金の心配をせずに安心して勉強に励むことができました。これからも受験生のために支援を続けてください。よろしくお願ひします。支援して下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、今後の人生を駆け抜けていきたいと思っています。
- ◇ 私が大学受験を通して感じた事は、周囲の人達の協力があるからこそ自分のやりたいことに打ち込むことができるということです。金銭的な面では Hope for Tomorrow による受験費用の支援は両親もとても助かると話していました。そして精神的な面では家族の支えはもちろんですが最も大きかったことが、目指す大学は違えど「合格」という共通の目標に向かって共に努力し合える友達がいるということが大きな支えになりました。このお陰で最後まで勉強に取り組むことができました。
- ◇ 私の高校生活は本当に充実した3年間でした。周りの人達に支えられ受験を無事良い形で終わることができました。私は将来高校の英語教師になりたいと考えています。Hope for Tomorrow さんの奨学金のお陰で私は自分の可能性を広げることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。大学の4年間、自分の夢にむかって周りへの感謝を忘れず、様々な事を学び地元に戻ってきたいと思っています。
- 現在も校舎の耐震工事や他校の仮設校舎が併設されていて学習環境は未だ完全ではありません。原発事故の影響で家族と離れて生活する生徒も少なからずいます。進学率は高いものの通学できる範囲に大学がないため、保護者への経済的負担は大きく、このような他にはない“受験費用の支援”は、生徒および保護者にとって大変ありがたいものと思っています。(只野由美先生)

宮城県石巻高等学校

- ◇ 震災の影響で家計が苦しくなったのを知っていたので、遠い所や私立を何校も受けることはできないと考えていました。先生からこの支援を教えられ、北海道大学を受験することができました。チャンスをくれたこの支援に対して感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの支援でなるべく多くの受験生にチャンスを与えてあげてください。
- ◇ 震災で家は半壊となり、父は身体的影響により退職したため、家庭には金銭的余裕がありませんでした。テイラー・アンダーソン記念基金、Hope for

Tomorrow のおかげで、お金の負担を軽くすることができました。大学で頑張り、故郷の宮城・石巻の人々の役に立つ仕事に就きたいと思っています。

- ◇ 受験料、旅費共に高額になり、家計への負担が大きくなるため、家族に申し訳ない気持ちがありました。この支援のお蔭で精神的にも余裕ができ、受験に専念することができました。
- 自宅が被災した生徒は全体の 72%、減収となった家庭は 22%、自宅以外から通学する生徒は 120 人以上います。支援の動きも縮小傾向にあり震災の風化が懸念される中で、引き続き被災地の生徒へ思いを寄せて頂き大変感謝しております。生徒達は感謝の念を抱きながら自らの志を持ち受験することができました。今後も変わらぬご支援を頂けますようお願いいたします。(進路指導部長 友永能久先生)

岩手県立高田高等学校

- ◇ 私は4つの大学や短大を受験しました。移動や宿泊や受験にお金がかかり、親にはとても申し訳なく思っています。春からの進学先では、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。辛いこともあったけれど、今では受験して良かったと思っています。支援していただき本当にありがとうございました。
- ◇ 親切なご支援に感謝します。私は大学に進学し、自分の視野や知識、価値の向上に努めたいと思います。受験するにあたって、様々なことを学びました。各分野の知識はもちろん、受験と向き合う姿勢なども学ぶこともできました。このように、自分が経験して得たことをこれからの生活で生かして、これからも日々進歩していきたいと思っています。
- ◇ 支援していただいたので様々な面で助かり、勉学に対しても頑張らなきゃと自分に言い聞かせ頑張ることができました。センター試験の当日にはベストを尽くすことができ、自己最高得点をとることができました。進学先では、高校生活で培った忍耐力を十分に発揮し、諦めずに4年後に迎える国家試験に向けて頑張りたいです。
- 今春から陸前高田市の新校舎に移転します。生徒の登下校の負担や手狭な仮設校舎での活動は解消されますが、現段階では校庭に仮設住宅があり屋外の活動には制約があります。模試受験料減免が終了したり部活動などへの補助も減りさまざまな形で保護者負担が増えています。そのような中、この支援にはほんとうに感謝しています。一般受験で複数の受験にチャレンジする生徒には大きな励みと支えになっています。(進路指導主任 滝川小百合先生)

- ◇ 私の家は東日本大震災の影響で経済的に厳しくなり、一時は就職も考えましたが父の後押しもあり進学することを決断しました。そんな中での今回のご支援は、ありがたく大変感謝しています。私は将来「理学療法士」を目指しています。医療を通じて患者さんの生活復帰の役に立ちたいと思っています。大学生活で心身ともに成長し、培った技術や能力を糧に自信を持って社会に飛び立てる日を今から夢見しています。
- ◇ 私は今も仮設住宅に住んでおり家では勉強できるようなスペースがあまり無かったので塾などに通って勉強していました。そのため塾代や受験料などたくさんのお金がかかってしまったので、この進学支援は本当に助かりました。私の将来の夢はパイロットになることです。険しい道だとは思いますが一生懸命努力して絶対なろうと思います。その第一歩としてまずは大学生活を自分に一切の妥協を許すことなく頑張っていきます。
- ◇ 私の家は母子家庭なので、支援していただいたおかげで母の負担の軽減となり、とても感謝しています。受験期間はずっと一人で戦っている気持ちでしたが、今考えると先生をはじめとする周りの色々な人に支えられていたのだと気づきました。その支えてくれた人達に感謝すると共に今後も進学先で勉強に励んでいきたいと思っています。
- 未だ仮設住宅から通学する生徒が10%程度おり、家庭学習が困難な生徒も多数います。気仙沼地域が受験場所から遠方にあるため、受験料・交通費・滞在費と長時間の移動は受験生と保護者にかなりの負担となっています。貴団体からの支援は本当に助かっています。震災からの復興は物心とも時間がかかると実感しています。他地域に比べれば間違いなく負担は大きいので今後ともできるだけ支援をお願いします。(3 学年主任 鮎川宗房先生)

- ◇ 津波で被災した事もあり、親にはできるだけ負担をかけたくないと考えていたおりに支援の声を掛けていただき、本当に感謝しております。また、金銭面の支援だけでなく試験の際には、自分はたくさんの人に応援していただいているという精神的な励みにもなり、自分の持つ以上の力を発揮することができました。いつか支援して下さったたくさんの方々之恩返しができるように精一杯頑張りたいと思います。
- ◇ このような形で進学に対する支援をしていただき本当にありがとうございます。震災から4年がたち、多くの出来事が風化していく中、忘れずに支援をしていただいた事をととても嬉しく思いますし、この支援を無駄にしないためにも進学してからも努力を怠らないようにしていきます。
- ◇ 私は高校に入る前から看護師になることを目標にしていました。しかし我が家は母子家庭で、東日本大震災で家も全壊していたので、多くの私立大学を受験することには、ためらいがありました。母が気にするな、こういう時に使わないでいつ使うのかと言ってくれたので、最後には受験に踏み切れましたが、それでもやはり心苦しいものはありました。今回支援していただいた事で母に大きな負担をかけることなく受験できました。本当にありがとうございました。
- 仮設住宅に住む生徒が減る一方で新居などへの移転で別の諸費用が発生しています。収入は変わらず家賃・授業料・受験料などの支出は増えるのみです。卒業後の奨学金を希望する家庭は4年たっても減少の傾向は見られません。大きな夢と希望を抱いて新たな学校へ進む生徒たちに、温かいご支援をいただき感謝しております。生徒たちは少なからず故郷の復興を担おうという志をもっております。今後ともご支援いただけると幸いです。(阿部佳子先生)

II. 国際交流支援

英語個別レッスンでは、福島市と陸前高田市の生徒に対して、英語で行う個人指導を週1回1~2時間行いました。参加生徒は大学進学後を見据えて自らの英語力を向上させたいとの意欲にあふれ、講師の方と話し合っただけで学習内容を決め、楽しみながらレッスンをしています。これまでにこの支援を受けて大学生となった子どもたちは、大学の短期留学制度を利用して更に国際的視野を広げたいと考え勉学に励んでいます。なお、岩手県立高田高校でのレッスンに対して、PC2台と毎月の光回線使用料を支援しています。

昨夏開催中止となった『日米高校生サミット in 陸前高田』を、本年7月中旬にNPO法人AidTAKATA他と共催で行う予定です。このイベントは国際交流基金の招待で来日した米国高校生と陸前高田の高校生が交流し互いの理解を深める機会であり、被災地の高校生が海外とのつながりを体感し語学など自己研鑽を進めるきっかけにできればと考えます。

2014 年度会計報告

(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)

収入の部	
1. 寄付金募集事業	
進学支援	2,075,000
国際交流支援	40,000
全ての支援	2,803,065
銀行利息	469
計	¥4,918,534
2. 募集事業以外(運営管理費用)	
理事からの拠出	160,932
計	¥160,932

支出の部	
1. 事業費	
I. 進学支援	
支援金 5 校 127 名分	5,000,000
銀行振込手数料	27,519
II. 国際交流支援	
光回線使用料	74,110
事業費計	¥5,101,629
2. 運営管理費	
通信運搬費(電話・切手・サイト運営費)	44,150
旅費交通費	82,120
消耗品・事務用品	2,251
手数料(残高証明等)	1,594
雑費(印刷・コピー他)	35,694
運営管理費計	¥165,809

寄付公表者 (敬称略)

テイラー・アンダーソン記念基金(¥1,000,000)
 二日間だけの日本インド会社(¥500,000)
 聖心インターナショナルスクール(¥190,865)
 シクラメンの会(¥100,000)
 鳥生哲也(¥10,000) 白井忠弘(¥10,000)
 梶谷純子(¥20,000) 角田敏子(¥10,000)
 伊藤玄二(¥50,000) 菅原良子(¥10,000)

皆様からの寄付は、総額 4,918,065 円となり、事業費支出は 5,101,629 円となりました。前受金 1,130,000 円を除く次年度への繰越金は 972,360 円となります。なお、1 月から 3 月末迄の入金は繰越金となります。運営管理費は支出が 165,809 円となり、理事からの拠出と前年度からの繰越金で賄い次年度への繰り越しは 24,810 円となります。日常の通信費・交通費等は全額理事個人の負担とし計上していません。

Hope for Tomorrow は認定 NPO 法人となり、ご寄付は税制優遇措置(寄付控除)の対象となります

【寄付金振込先】

三井住友銀行
 本店営業部 (支店番号:200)
 口座番号 : 普通預金 2365928
 口座名称 : 特定非営利活動法人 Hope for Tomorrow
 口座カナ : トクホ)ホープフォートウマロー

ゆうちょ銀行 〇一九店(店番:019)
 口座番号 : 当座預金 0385960
 口座名称 : NPO 法人 Hope for Tomorrow
 口座カナ : トクヒ)ホープフォートウマロー
 ※郵便局 ATM、ゆうちょ銀行の振替払込書で送金する場合
 口座記号番号:00130-0-385960

特定非営利活動法人
 Hope for Tomorrow
 (ホープ フォー トウマロー)

Tel/Fax 03-6407-0936
 info@hope-tomorrow.jp
 http://hope-tomorrow.jp